



科研製薬株式会社

**2017年3月期決算
I R ミーティング**

2017年5月12日

- **本説明資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。**
- **新薬が発売されるまでには、多額の資金と長い開発期間が必要となります。有効性と安全性を確認しながら慎重に開発を進めていくうちには、開発中止となる可能性があります。**
- **「開発テーマの状況」は、現時点の開発計画に基づいて作成しております。開発計画の進行に伴い、変更等が発生する可能性があります。**

2017年3月期決算のポイント

- 爪白癬治療剤クレナフィンの売上は伸長（前期比：+8.8%）
- 薬価改定の影響等により 7.5%の減収
 - 減収要因：薬価改定の影響、Jublia関連収入の減少
- 当期純利益は増益（前期比：+4.1%）
- 15期連続の増配および自社株買いを実施
 - 年間配当150円（併合後基準で4円増配）
 - 53万株（約35億円）の自社株買いを実施し、流通株式数は40,871千株に

～トピックス～

- 歯周組織再生剤「リグロス」を新発売
- 爪白癬治療剤「クレナフィン」を韓国の東亜ST株式会社に導出
- 杏林製薬とアレルギー性疾患治療剤「デザレックス」でコ・プロモーション

2017年3月期損益実績(連結)

(百万円未満切捨)	2016年 3月期	2017年 3月期	増減	前期比 (%)	2017年 3月期 計画※	対計画比 (%)
売上高	109,730	101,479	▲ 8,250	92.5	106,100	95.6
売上原価	47,580	44,539	▲ 3,041	93.6	46,400	96.0
販売費及び一般管理費	26,490	26,745	254	101.0	30,800	86.8
研究開発費	5,883	6,450	566	109.6	10,200	63.2
営業利益	35,146	30,707	▲ 4,439	87.4	28,900	106.3
経常利益	35,365	30,981	▲ 4,384	87.6	29,100	106.5
税引前当期利益	35,292	31,092	▲ 4,199	88.1	29,000	107.2
当期純利益	21,143	22,017	873	104.1	20,800	105.9

(※ 2017年3月期の期初計画:2016年5月12日公表)

売上内訳(連結)

(百万円未満切捨)	2016年 3月期	2017年 3月期	増減	前期比 (%)
医療用医薬品・医療機器	90,849	85,404	▲ 5,444	94.0
農業薬品	5,620	5,629	8	100.2
不動産賃貸料	2,338	2,386	47	102.0
その他	10,921	8,059	▲ 2,862	73.8
(Jublia関連売上※)	5,722	2,469	▲ 3,253	43.1
合計	109,730	101,479	▲ 8,250	92.5

(※原体売上、製剤売上、ロイヤリティ収入、マイルストーン収入、契約一時金を含む)

主な医薬品・医療機器の売上実績内訳

(百万円未満切捨)	2016年 3月期	2017年 3月期	前期比 (%)
アルツ	30,760	28,978	94.2
クレナフィン	19,868	21,624	108.8
セプラフィルム	11,262	11,036	98.0
リピディル	4,526	4,430	97.9
フィブラストスプレー	3,617	3,700	102.3
ジェネリック医薬品	13,292	11,903	89.6

連結貸借対照表／連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表

(単位:百万円未満切捨)

	2016年 3月期末	2017年 3月期末	増減
流動資産	88,991	90,494	1,502
固定資産	43,999	44,565	565
資産合計	132,991	135,060	2,068
流動負債	33,861	24,020	▲ 9,840
固定負債	9,255	8,384	▲ 870
負債合計	43,116	32,405	▲ 10,711
純資産合計	89,875	102,655	12,779

【主な変動科目】

- ◆ 資産
現金及び現金同等物: 43,767百万円
(+2,023百万円)
- ◆ 負債
有利子負債: 3,875百万円
- ◆ 純資産
利益剰余金: 84,331百万円 (+15,722百万円)
自己株式: ▲19,813百万円 (▲3,512百万円)

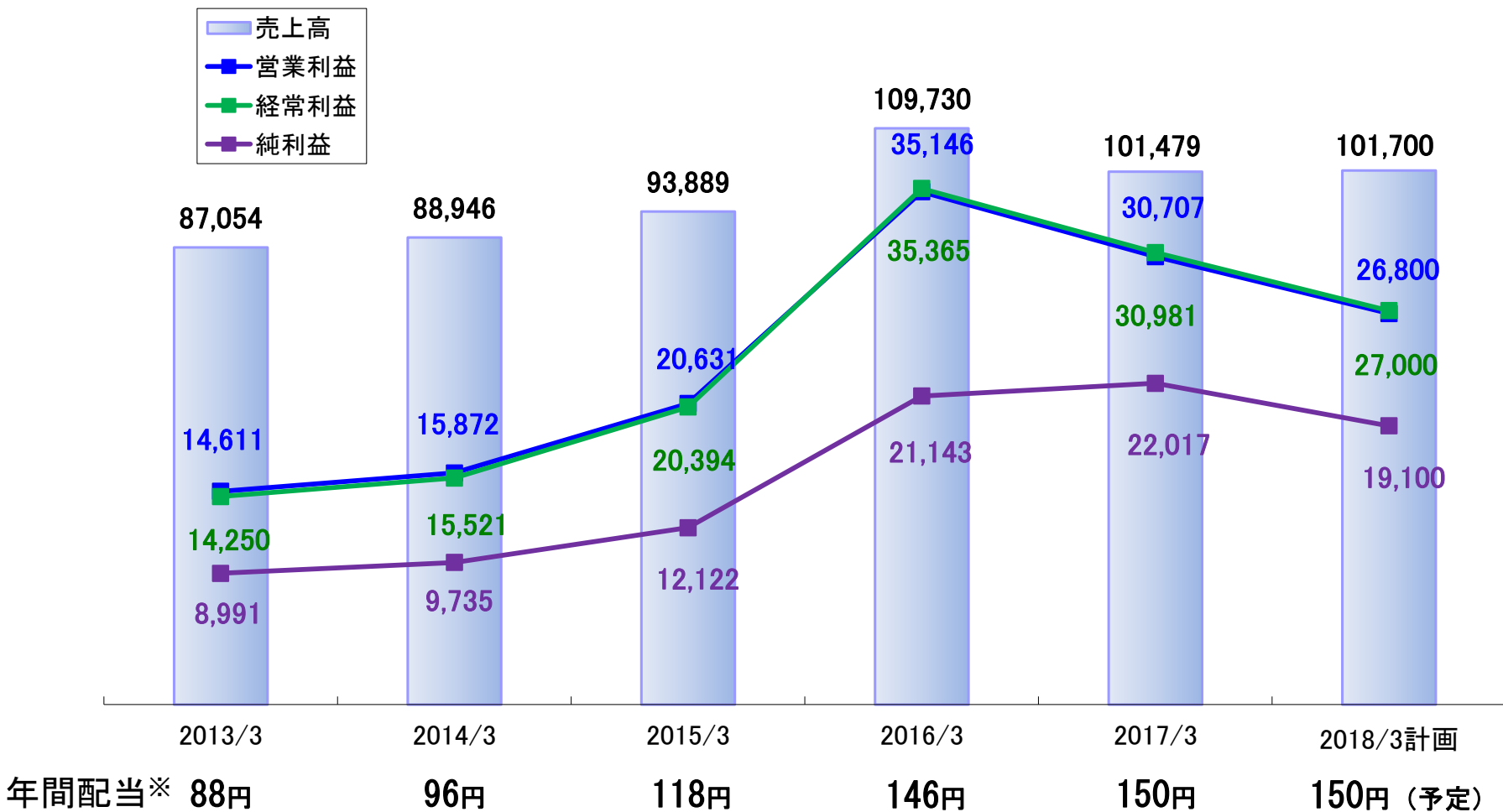
連結キャッシュ・フロー計算書

	2016年 3月期末	2017年 3月期末	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	27,067	15,327	▲11,739
投資活動による キャッシュ・フロー	▲4,105	▲3,503	602
財務活動による キャッシュ・フロー	▲5,984	▲9,800	▲3,816
現金および現金同 等物の期末残高	41,744	43,767	2,023

【主な変動要因】

- ◆ 営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前当期純利益: 31,092百万円
- ◆ 投資活動によるキャッシュ・フロー
有形固定資産の取得: 2,166百万円
- ◆ 財務活動によるキャッシュ・フロー
配当金支払額: 6,288百万円

業績推移(連結)



※2015年10月1日付で株式併合(2株を1株に併合)を実施しております。
 上記年間配当は、株式併合後の基準で換算した金額を記載しております。

開発テーマの状況

開発コード	予定適応症	開発段階	備考
KAG-308	潰瘍性大腸炎	P II	旭硝子株式会社と共同開発 経口プロスタグランジン製剤
BBI-4000	原発性局所多汗症	P II	ブリッケル・バイオテック社より導入 外用抗コリン剤
KMW-1	熱傷焼痂除去	治験準備中	メディウンド社より導入 外用酵素製剤 海外での製品名 : NexoBrid

ライセンス関係:

欧米におけるbFGFの導出先であるサンスター(歯科領域)・オリンパス(創傷治癒領域)との契約を解消

2018年3月期損益計画(連結)

(百万円未満切捨)	2017年 3月期	2018年 3月期 計画	増減	前期比 (%)
売上高	101,479	101,700	221	100.2
営業利益	30,707	26,800	▲ 3,907	87.3
経常利益	30,981	27,000	▲ 3,981	87.1
税引前当期利益	31,092	27,000	▲ 4,092	86.8
当期純利益	22,017	19,100	▲ 2,917	86.8
研究開発費	6,450	10,900	4,450	169.0

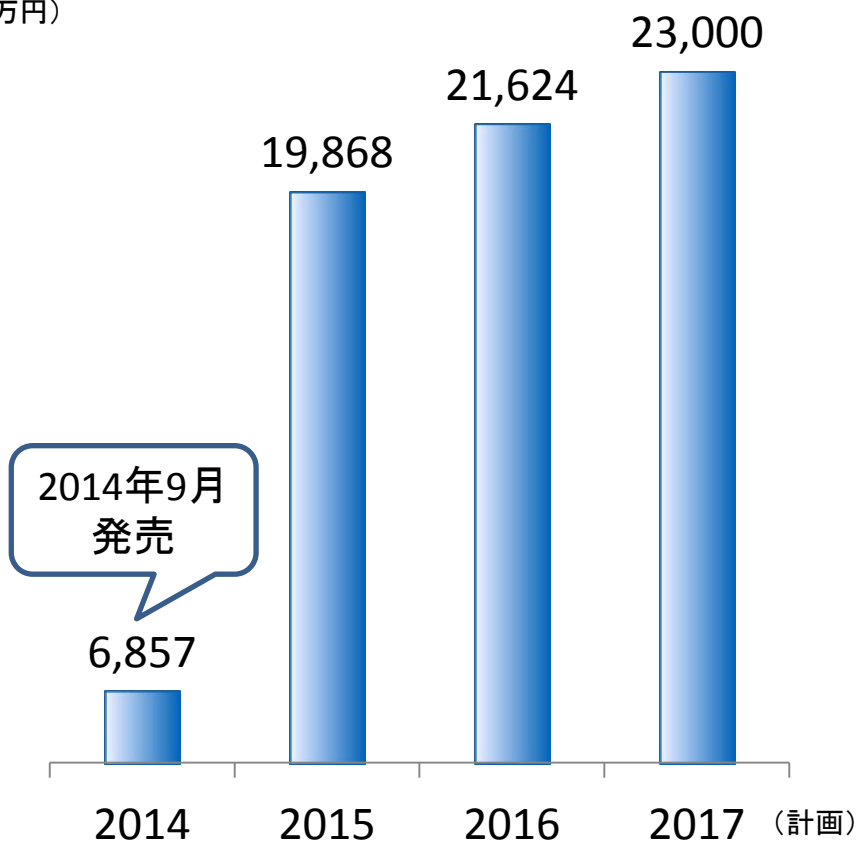
主な医薬品・医療機器の売上計画内訳

(百万円未満切捨)	2017年 3月期	2018年 3月期 計画	前期比 (%)
アルツ	28,978	29,700	102.5
クレナフィン	21,624	23,000	106.4
セプラフィルム	11,036	11,200	101.5
リピディル	4,430	4,600	103.8
フィブラストスプレー	3,700	3,800	102.7
ジェネリック医薬品	11,903	12,000	100.8

国内医療用医薬品・医療機器

爪白癬治療剤 クレナフィン

売上高
(百万円)



2016年度実績:前期比 108.8%
新規患者への処方増により伸長。

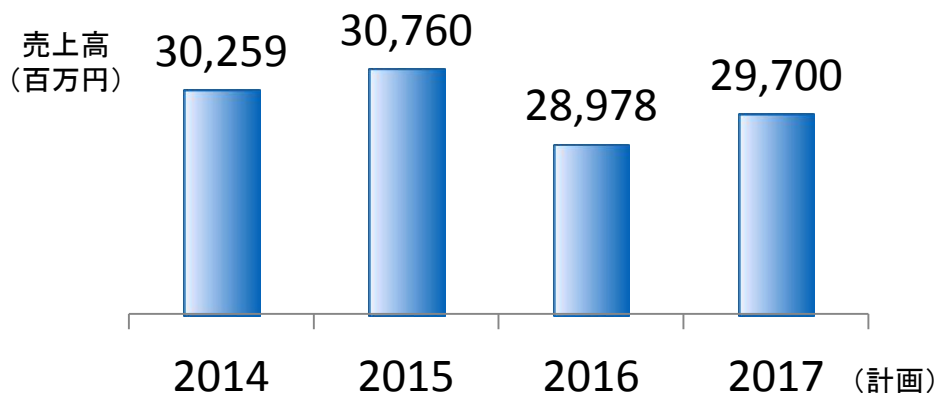
2017年度計画:前期比 106.4%
潜在的な患者さんへの処方により市場の拡大目指す。

- 患者さんへの疾患啓発活動
(新聞広告、市民公開講座等)
- 皮膚科Drへの情報提供活動を強化
- 他診療科のDrに対する疾患啓発活動
(皮膚科との診療連携を推奨)

国内医療用医薬品・医療機器

関節機能改善剤

アルツ



2016年度実績:前期比 94.2%

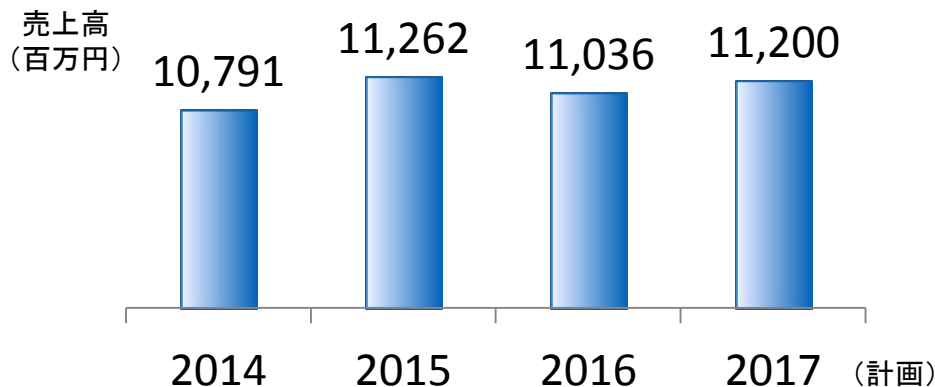
薬価改定の影響を受けるも、数量の伸びで影響を軽減

2017年度計画:前期比 102.5%

2016年4月に発売した新剤形の浸透を進め、引き続きシェア拡大に向け注力

癒着防止吸収性バリア

セプラフィルム



2016年度実績:前期比 98.0%

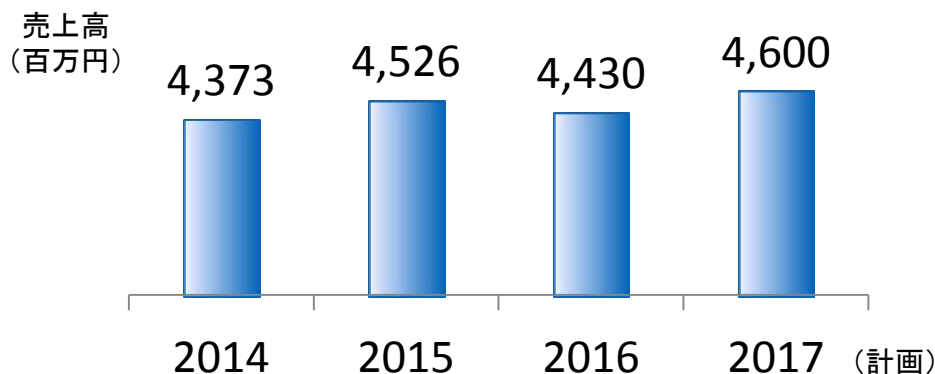
腹腔鏡手術への移行が影響

2017年度計画:前期比 101.5%

腹腔鏡手術や帝王切開に対する使用方法や有用性の理解を進める

国内医療用医薬品・医療機器

高脂血症治療剤 リピディル



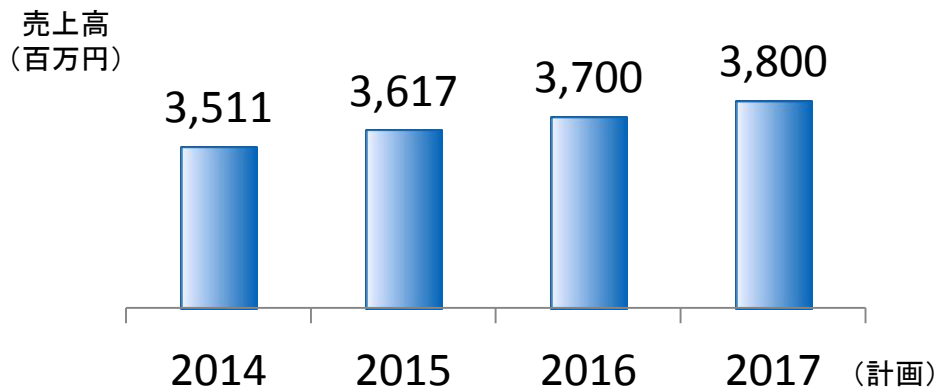
2016年度実績:前期比 97.9%

薬価改定の影響を受けるも、数量の伸びで影響を軽減

2017年度計画:前期比 103.8%

糖尿病ガイドライン2016 など関連ガイドラインの活用により、有用性の理解を更に進める

褥瘡・皮膚潰瘍治療剤 フィブラストスプレー



2016年度実績:前期比 102.3%

2015年3月に改定された熱傷診療ガイドラインの普及等により使用意義が浸透

2017年度計画:前期比 102.7%

熱傷診療ガイドラインなどの創傷関連ガイドラインを活用し、情報提供活動を強化

中期経営計画2018

将来を見据えた成長基盤の整備

【重点課題①】
パイプラインの充実

【重点課題②】
クレナフィン・新製品の価値最大化
既存製品の営業基盤強化と効率化

【重点課題③】
創造力豊かな人材の育成

～ 数値目標 ～
2018年度の連結売上高：1,100億円

重点課題①:パイプラインの充実

1. 創薬力の強化

- ・ 下記領域を中心とする当社の経験、技術、基盤を活用できるテーマに注力

炎症・アレルギー

真菌症

疼痛

周術期

- ・ 新たな研究テーマについても検討継続
- ・ 共同研究の裾野拡大

2. 外部からの事業機会を有効活用

- ・ 当社プレゼンスの高い領域(整形外科・皮膚科)を中心に開発品を導入

2016年4月に熱傷焼痂除去剤 KMW-1 (Nexobrid) を導入

重点課題②:クレナフィン・新製品の価値最大化 / 既存製品の営業基盤の強化・効率化

◆ 国内 ◆

1. クレナフィン

爪白癬への認識を高め早期治療を勧める

- ① DTCによる患者さんへの疾患啓発、皮膚科受診勧奨
- ② 市民公開講座(2016年度実施)等における疾患啓発



2. 新製品

～ 歯周組織再生剤 リグロス ～

- 2015年10月1日申請、2016年9月28日承認
- 2016年12月に発売し、大学病院等より情報提供を開始
- 2017年4月より歯周外科手術の経験のある歯科医師全てが使用可能に



世界初の歯周組織再生医薬品の国内販売を本格展開

3. 既存製品

得意領域の基盤強化・効率化を進め、営業現場におけるプレゼンスを更に高める

重点課題②:クレナフィン・新製品の価値最大化 / 既存製品の営業基盤の強化・効率化

◆ 海外 ◆

1. クレナフィン(Jublia)

① 北米市場

- Valeant社 皮膚科領域体制見直し・強化(営業増員等)
- 当社との連携強化(ハイレベルな包括的協議の場を設置へ)

② 自社テリトリー

- 韓国: 東亞ST社に導出(2016.5)、NDA申請中。2017年上市見込み。
- 中国・台湾: 当局への申請及び導出先について検討中。

③ 米国・カナダ以外のValeant社テリトリー

- 欧州・アジア地域等について販売開始に向けValeant社と検討・協議中。

2. リグロス・フィブラストスプレー

⇒ 海外展開を進めるべく、新たなパートナーの検討に着手